

肥料の進化（開発）でニーズに対応

ジェイカムアグリ株式会社

取締役 田代 教 昭



新年明けましておめでとうございます。

平成26年の年頭にあたり、本誌「農業と科学」をご愛読いただいております皆様方のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

平成24年12月に第2次安倍政権が誕生し、経済回復を最大目標に大胆な金融政策、機動的な財政再建、民間投資を喚起する成長戦略の“3本の矢”を柱とする経済政策（アベノミクス）が掲げられました。日本経済は円安、株高による景況感の好転を受け、明るい兆しが見えてきたかと思われれます。

一方、国内肥料事業を取り巻く環境は、農業就業者の平均年齢の上昇と就業人口の減少、耕作放棄地の広がり、施肥量の低減など今だ厳しい状況が続いております。

こうした中で、弊社はコーティング肥料の先駆者として長年にわたりコーティング尿素（LPコート、エムコート）、コーティング複合肥料（ロング・エコロング）を開発、販売してまいりました。そして、その歴史の中でコーティング肥料は、溶出型および溶出タイプの多様化、保証成分量の高成分化、被膜への分解性付与、溶出の特殊化とまさに時代のニーズを受けて進化をしてまい

りました。

これらの進化したコーティング肥料は、関係諸先生方のご研究の成果に基づき「全量基肥施肥」・「基肥重点施肥」対応の肥料として施肥の効率化、環境負荷軽減などその時代時代で高い評価をいただいております。さらに昨今では、「水稻育苗箱全量施肥」としての「苗箱まかせ」が省力、環境負荷軽減、安定生産面から研究、生産等の各場面で注目を浴びていることは大変喜ばしいことと存じます。

弊社は、コーティング肥料の他に化成肥料（硫加磷安、磷加安、磷硝安加里）、緩効性肥料（IB、CDU）、水稻培土、園芸培土（与作）等多種多様の商品を取り揃えております。

新社発足から5年目の年を迎え、これらの多くの商品に加え、皆様方のご要望に応えるべくさらに進化した商品をご提供できるよう努力していく所存でございますので、これからも倍旧のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後に、本誌「農業と科学」も編集部一同内容の充実を図るよう努力してまいりますので、本年も益々のご愛読を深くお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。